まおゆう 魔王勇者

Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者

『この我のものとなれ、勇者よ』『断る!』

第四巻

Comic Ishida Akira
Author Touno Mamare

漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

KCA264-7
角川書店

9784041203613

ISBN978-4-04-120361-3
C0979 ¥580E

定価:本体580円(税別) 発行:角川書店

1920979005808

まおゆう魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」
第四巻

まおゆう
魔王勇者

第四巻

漫画　石田あきら　原作　橙乃ままれ
キャラクター原案　水玉螢之丞・toi8

第十三話 Archenemy and Hero 13th chapter　001
もう置いていかれるのはいやなんだ

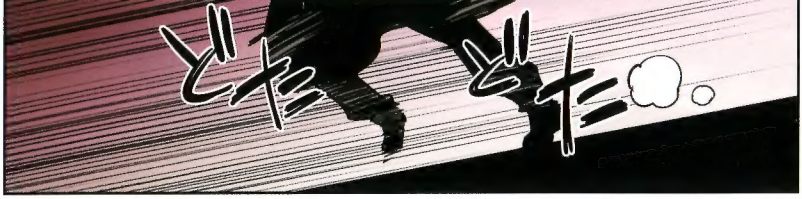
第十四話 Archenemy and Hero 14th chapter　047
私は“人間”だから

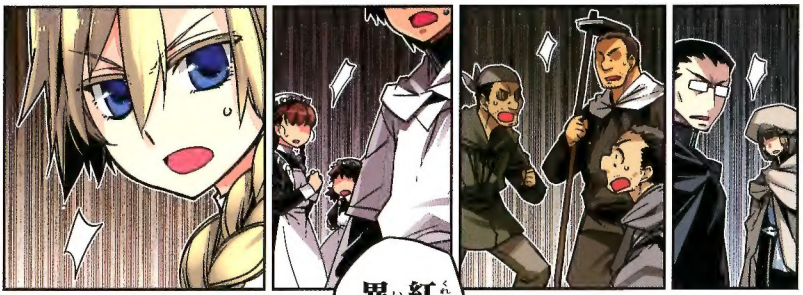
第十五話 Archenemy and Hero 15th chapter　091
それがはじまりだ

第十六話 Archenemy and Hero 16th chapter　133
金貨1枚で何ができるのか

Archenemy and Hero 13th chapter 第十三話

もう置いていかれるのはいやなんだ





まおゆう
魔王勇者
第十三話

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」

Archenemy and Hero

第四巻

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案
水玉螢之丞・toi8

コラムページ
竹之内大輔、花倉洸（レッカ社）
野村昌陸

まおゆう 第三巻のあらすじ

Lectures on Archenemy and Hero
Outline of volume.3

人間と魔族の間で長年繰り広げられてきた争いに真の終着を迎えるため、手を結んだ「魔王」と「勇者」。人間界に移り住んだ魔王は「紅の学士」を名乗って馬鈴薯や玉蜀黍、羅針盤などの普及に努めながら、弟子への教育を進めていた。一方、勇者は魔王の部下「黒騎士」として、魔王不在の魔界で暴走しつつあった好戦派を抑え込んでいった。

そんななか、「冬寂王」率いる冬の国を中心に「第二次極光島奪還作戦」が始まる。司令官に任命された勇者のかつての仲間「女騎士」は軍の先頭を切って奮戦し、その勇姿を目にした将兵も大いに奮い立つ。さらに女騎士の戦術の妙もあり、魔族の拠点を次々と陥落させていき、魔族を率いる「南氷将軍」に迫った。堅固な要塞を有する南氷将軍は籠城戦の構えを見せたが、勇者に誘導された1万を超える「聖鍵遠征軍」が現われたのを見て、やむなく撤退を決意する。撤退する味方を支援するため、南氷将軍はみずから殿を務めて連合軍を大いに苦しめるが、女騎士との一騎討ちに敗れ、こうして勝敗は決した。

この戦いの結果、極光島は人間の手に戻り、冬の国は南氷海での交易路を回復させた。さらに、冬の国・鉄の国・氷の国からなる「三国通商同盟」が発足し、南部諸王国の結束は堅固なものとなった。

一方、聖鍵遠征軍が撤収した魔界の「開門都市」は、残った人間を守ろうとした「東の砦将」の尽力もあり、魔族と人間が共存する稀有な街となっていた。

このように「まだ見ぬ丘の向こう」を目指す魔王と勇者の活動は、冬の国を中心に着々と成果を上げつつあったが、魔王にはふたつの懸念があった。それは、長らく放置していた魔界の状況と、歴代魔王の魂を封じた「冥府宮」への参詣である。これらの問題を片づけるため、魔王は勇者に後を託すと、メイド長と共に魔界へと帰った。

しかし、時同じくして、冬寂王のもとに中央聖教会からの使者が到着していた。彼らが要求したのは「紅の学士の身柄引渡し」。教会の教義にそぐわぬ異端として魔王を弾劾するのだった——。

魔王

魔族の王。未だ見ぬものを求め、真の意味で戦争を終わらせるべく、豊富な知識を武器に行動を開始する。人間界では「紅の学士」を名乗っている。

メイド姉

元農奴の少女。魔王の館に逃げ込んだ縁でメイドとして働くことに。魔王から教えを受けるなかで、自らの存在意義に思い悩む。

メイド長

魔王が幼いころから世話役をしている側近で、魔王の親戚でもある。「メイド道」を究めるため、日々精進に励んでいる。

メイド妹

姉と同じく魔王の館で働くことになった元農奴。メイドとしての業務を通じて、料理のおもしろさを感じるようになる。

軍人子弟

魔王の館で学ぶ、鉄の国の軍人の子息。「根性で戦う」といったような精神論者だった。

商人子弟

魔王に学んでいたが、彼女の推薦で冬の国の王宮に務めることに。商人家の三男坊。

貴族子弟

氷の国の貴族の子弟で、魔王のもとで学んでいる。ややキザなきらいがある優男。

火竜大公

魔族最大の氏族のひとつ・火竜族の長。自らを破った黒騎士（勇者）を買っている。

火竜公女

火竜大公の愛娘。父を倒した黒騎士のことを、「自分の夫となるべき人物」としている。

魔族娘

聖鍵遠征軍占領下の開門都市で、酒場で働かされていた少女。今は火竜公女の下女に。

勇者

魔王に説得され、彼女とともに戦争を終わらせることを決意した青年。人並み外れた戦闘力をもつ。魔王の配下「黒騎士」として、魔界で活動することも。

女騎士

かつて勇者とともに魔族討伐の旅をしていた3人のひとり。現在は湖畔修道院の指導者として、冬越し村を拠点にして活動している。

冬寂王

先代王である父の戦死後、冬の国を継いだ。中央からの自立を目指して奮闘している。

執事

冬寂王に仕えるダンディな老人。その正体は、かつて勇者と旅した弓兵である。

青年商人

人間界最大の経済団体「同盟」の幹部。交渉の席で魔王に惚れ込み、大きな影響を受ける。

氷雪の女王

冬の国の隣国である氷の国を統べる女王。冬寂王を支持し、三国通商同盟を締結する。

鉄腕王

鉄の国の王で、武勇で知られる歴戦の強者。鉄の国は大陸有数の工業国として知られる。

辣腕会計

常に青年商人の傍らに控えている男性。彼の片腕として、指示を的確かつ冷徹にこなす。

白夜王

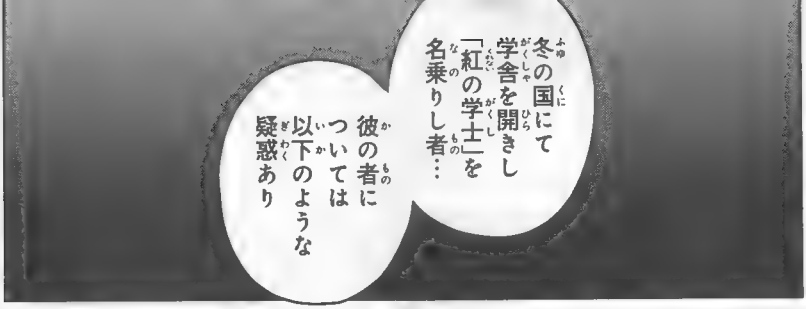
白夜の国の国王。冬の国などとの不和から、南方諸国にあって唯一通商同盟に参加しない。

片目司令官

聖鍵遠征軍の元司令官。敗戦の責により処刑されるところを、白夜王に拾われる。

東の砦将

聖鍵遠征軍の傭兵士官。軍の撤退後、開門都市に残された人々を守るため魔族と交渉する。


冬の国にて
学舎を開きし
「紅の学士」を
名乗りし者…
彼の者に
ついては
以下のような
疑惑あり

ひとつ
彼の者が
罪なき農民に
広めている
馬鈴薯なる作物は
魔族によって
栽培される
悪魔の実である

ひとつ
彼の者が進める農法指導
及び肥料の方法は 精霊の
教え給うたものにあらず
邪なる異教の教えを
含む疑いがある

ひとつ
彼の者が
学舎で教えている
学問の数々
これらは教会の権威を
ないがしろにし
侮蔑するものである

ひとつ
聖王都の神学会には
「紅の学士」なる者を
輩出した記録はない

告発と以上のような
疑惑に基づき
「紅の学士」なる者は
異端である疑いが
十分である
中央聖光教会
異端審問司教
――と

うかつでした
この展開を
見落とすとは
やはり
大主教選挙の
影響でしょうか

ええ
新たに就任した
大主教は生粋の
精霊信仰主義者です
…おそらくは
三回目の聖鑓遠征軍を
計画しているのでしょう
下がりつつある
教会の威信を
回復するために

そのためには
内政を回復させつつある
南部諸王国が邪魔である
……と

馬鈴薯や
農法の改善で
中央に頼らない
食料の生産も
行えるようになり
南部諸王国は
冬の国を中心に
経済的自立を
強めています
……結果
彼らに対する
中央の発言力が
低下している

中央に権威を
取り戻す――

いえ
番犬に首輪と鎖を
つけ直すために
学士の進める
改革と教えが
邪魔になったの
ですね

「同盟」としては
どうしますか？
現状では
身動きが
とれませんね
目下
すべきは
別のことです

トントン…
ガチャ
…

貴方でしたか
ちょうど呼ぼうと
思っていました
おう
そろそろかと
思ってたぜ
お前もとうとう
同盟の「委員」か
出世したな
羅針盤や
玉蜀黍の功績は
大きかったか
ええ ようやく
「十人委員会」に
入ることができました
…ですが
忙しいのは
これからですよ
わかってンよ
そちらの
彼は？
…貴方とは
氷の国の宮殿で
何度かお会い
していますね
そして
紅の学士殿の
学舎でも

ええ
ご無沙汰しています
青年商人殿
ここに用が
あるってんでな
助かりましたよ
二セ〇〇が
氷雪の女王から
あずかった代金です
これは私が
納め取りましょう
女王はいかが
お過ごしですか？
今回の件では
心を痛めて
おられますよ
ですが
「三国通商同盟の
盟主は冬寂王だ」
これだけは
はっきりと
申されました

なるほど
それで これから どうされる おつもりですか？
いやあ
国にいても 役立たずな もので
女王にも「暇なら 各国をまわってこい」 なんて言われてまして
では 私からの 依頼を受け ませんか？
同盟本部 「十人委員会」 との交渉を
!?
こいつは 部外者だぞ!?

部外者なんて
いないんですよ
金貨を手にしている限り
誰ひとりとして部外者で
いることなど許されない
——これはそういう
戦なんです
…交渉の内容は？
十人委員会を
静止させてください
方法は
お任せします
時間稼ぎ…
ですか
今は時間が
必要です
私にも
貴方の
師匠様にも

承りましょう
やり方と結果は
保証しかねますが
宮廷マナー話とダンスをするくらいしかとりえがありません
僕は金勘定も戦もできませんからね
いやいや
これから向かうところもなかなかの戦場ですよ
わかっています
でも そこならば僕は
「きょとんとした顔で死ぬ」
ことだけはないでしょう
決まりですね
中年商人さんは
彼の案内と援助を
お願いします
やれやれ
とんだ
貧乏くじだ
中央の最新流行はなにかなー
さー行くぞ

十人委員会への
接触は 彼に任せて
大丈夫でしょうか？
彼ならば他の委員の
旗色をうかがって
くれるでしょう
大主教派が
どれくらいいるのか
早急に把握したいですね
貴方は
どちらなのです？
どちらでも
ありませんよ
むしろ どちらかに
偏っていたら
きっとあの人に
軽蔑されてしまう

私は
どうしましょう
資産調査を
お願いします
「同盟」各支部の
動的財産の規模…
および
「同盟」参加商人の
資産状況を把握したい
聖鍵遠征軍が
組織されるにせよ
そうでないにせよ
次に吹く風に
備えなければ
なりません
はい
しかし…
今回の流れを
仕組んだ首謀者は
誰なのでしょうか…

ギャはははは
ヒヒヒ
はははははは
いい気味だ
冬の国の青二才め！
はは
なにが
流氷だ
なにが
農業改革だ
なにが
生産性だ
そんなやり方を
精霊がお認めになる
はずがないのだ！
ガ…
ガ…
貴様もそう思うで
あろう…？

栄光ある
聖鍵遠征軍
司令官殿
…ああ
奴らには
地獄こそが
ふさわしい

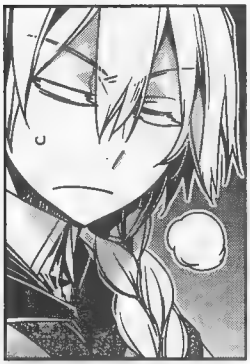
クソ…ッ
疼く…
この目が…
ネズミ共…
闇が…

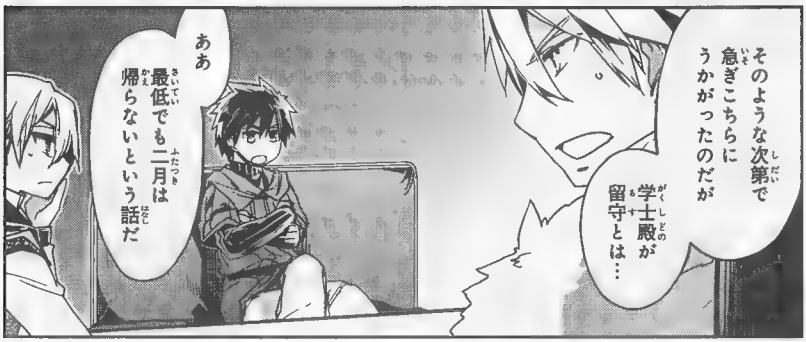
死を待つだけの
貴様を地下牢から
救ったのは我だ
その恩
忘れるでないぞ
感謝は
しているさ
白夜王の
怨敵は
我に任せろ

軍をよこせ!
我に手足を与えろっ!
斬って
斬って
斬り殺して
やるっ!!

まぁ待て
奴らを殺すのは
いつでもできる
まずはあのヒヨッコに
我が味わった数千倍の
恥辱を与えてやるのだ
それで
これか…
愚か者どもの
うろたえる様が
目に浮かぶわ

冬の王よ
お前の宝を
お前の国を
ばらばらに
してやろう！




そのような次第で
急ぎこちらに
うかがったのだが
学士殿が
留守とは…
ああ
最低でも二月は
帰らないという話だ

その知恵に
おすがりしたく
思っていたのですが
いないと
なると……
中央教会め
光の精霊様を
なんだと思って
いるんだ
詭弁の種に
使っているだけ
じゃないか！
しかし聞けば
幻術の指輪が
あるとか
それを
使えば――……
爺さん
その先を
口にすると
斬るぞ
しかし
私が言わずに
誰が言います

すまぬ
我が不徳ゆえ
咎なき学士殿を
このような騒ぎに
巻き込んでしまった
だが私には
この国の民
すべてを守る
義務もある…
わかってる
そのへんは
俺の方で
なんとかするよ
悪い
メイド姉には
迷惑かけるが
捕まってくれ
はい
で
冬の国を出て
適当なところで
俺が助ける
たかが異端審問の
護送隊くらい
ものの数じゃない
それに冬の国を出た
あとなら責任は
そいつらにあるしな

それは…
それでは勇者はまた…
うん
また姿をくらませなければならないけどなしかたないさ
すみませぬ
この老愚はまた勇者をひとりで…
あ
今回はこの姉妹もいるしそのうち学士だって帰ってくるよ
メイド長もね―
私は共に行くぞ勇者！
農民たちの支援を誰がやるんだよ
それくらい修道会の組織で――
農法も馬鈴薯も異端とかで禁止されるんだ
今以上に大変になるんだぞ
う…
メイド長のお前がいちばんうるさい

また勇者ひとりに
背負わせて
しまうのですか…
これもすべて
人界の醜さだと
いうのに…
我が身で
済むことでさえ
あれば――
おねーちゃん…

この村から
引っ越すの？
村のみんなと
お別れしなくちゃ
いけないの？

勇者…
勇者の力なら
聖王都の軍でさえ
恐れることは
ないのに…
残念ながら
俺のオーナーが
そういうやり方は
許してくれないんだよ
それに俺だって
もう うんざりなんだ
戦って勝つとか
倒して奪うとか
ポン
…だからって
奪わせる気なんか
ないけどな

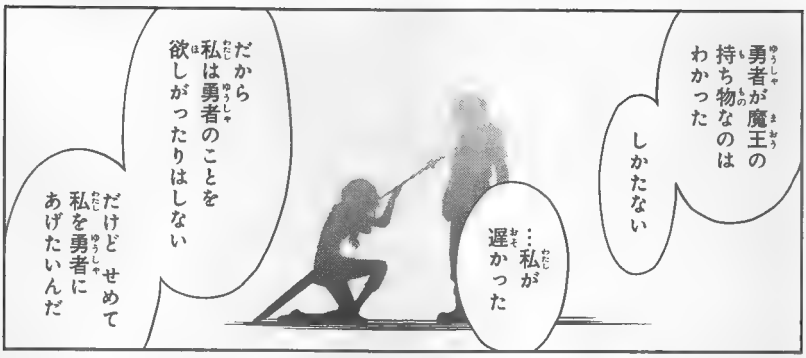
ああ
お姉ちゃんは
必ず俺が守る
だから
心配しないで
眠りな
ごそ…
村……
大丈夫だって
旅も楽しい
もんだぞ
世界中の
美味しい物を
食べられるしな
ぶるる
れあ…
おやすみなー
待たせたな…
ん
なんだ？
いや
勇者は優しいと
思ってな

そりゃまあな
なにせ勇者だし
たいていの奴が困ってたら守ってみせるぜ？
ああ
それはよくわかってるよ
…なんだよ
褒めても何も出ないぞ？
褒めてるわけでもないんだけどな
…勇者は私が困っていても助けてくれるだろう？
あたりまえだろ

勇者は魔王のものなんだろ？
いいのか？
え？
なんでそういう話に？
トン
トン
もっと空気を読む能力を身につけてくれ…
て
て
でも一方的なのは悔しいな
私も勇者に何かあげたい
申しもうしわけありません
おー
マジで？
女騎士にもらえるものなら何でももらうぜ？

我は…
湖畔の国に
精霊の恩寵を受け
生を賜りし光のしもべ
この剣を…
我 女騎士のすべてと
共に勇者に捧げる

待てよ
女騎士
待たない
この剣は
勇者のものだ
こんな時に
何を言ってるんだ
こんな時
だからこそ…だ


勇者が魔王の持ち物なのはわかった
しかたない
…私が遅かった
だから私は勇者のことを欲しがったりはしない
だけどせめて私を勇者にあげたいんだ

どんなに離れていても勇者は魔王のもので…魔王は勇者のもの
私も決して離れない心の絆が欲しい

勇者たちが未来へ向かうなら私の居場所だってその近くに欲しい
もう…
もう置いていかれるのはイヤなんだ

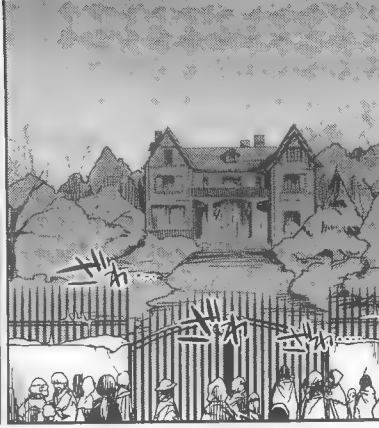
す…

…そんで
こう…だっけ

うん

これで私の剣は勇者のもの
私の身も心も勇者に捧げたってわけだ
ぽかぽかするぞ！
うん
なんだかむやみやたらと充実感があるな！
正面から殺せばわかってくれるはずや！
魔王のことなら大丈夫だ
私たちは親友になったんだ
あー
うん…
えーと…
捧げた以上返品はできないからな！
ですよねー

ざわ…
ざわ…

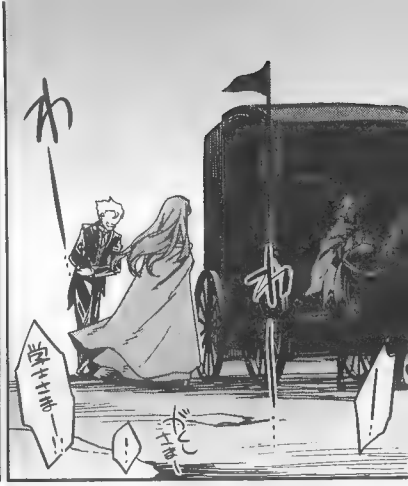

ざわ…

村の人がこんなに…
学士殿のことを聞いているのでしょう
我らの馬車が学士殿を捕らえに来たと思ったようですな
純朴な民にそうおもわれてしまったが…

学士を異端審問官に引き渡すまで我らが連行せねばならない
すまぬが…
はい
馬車に入るまで学士様の姿になりますね
す…

パァ…

そんなことがあるわけねぇべ！
教会の人がそう怒鳴っていただよ
教会？修道会じゃないのけぇ？
馬鈴薯は悪魔の食べ物だとも言ってたべ
だって馬鈴薯がなかったらどうするんだべ？
学士様がいなかったらうちの孫娘は死んでいたんだべや
ガチャ
あっ
学士様ーー!!
がくさまー!
何かのまちがいだんべ？
信じている者よ!!


姫さまー!!
ぶっ
!!

ああ…

…いったい
これから
どうなるんだべ…

ガ…
ゴト…

すごい人だかりだったな
はい
学士はあんなに慕われていたんだな

開拓民や農奴のなかにはあいつを本当の女神様だと思い込んでいるヤツだってたくさんいるんだぞ？
スゲェ…
マジで!?

私もう少し胸があれば…
そういう問題か？

私と妹が村の道を歩いていると

みなさん
笑顔で話しかけて
くれるんです
ゴトン
この春は
こんなに馬鈴薯が
採れたって
この秋は
小麦の育ちが
良いって
それで
ベリーをくれたり
卵をくれたり…
あの屋敷で
村の人から
もらったものが
食卓に
並ばない日なんて
ありませんでした

みんな
本当にいい人で
私や妹のことを
かわいがってくれて
当主様の
役に立って
やってくれって
馬鈴薯をくれて
ありがとうって…
赤ちゃんの
小さな手に
触らせて
くれるんです
賢くて優しく
なるようにって
ただの農奴だった
私にですよ？
当主様に仕える
偉い人だからって

…お別れするのは
少し寂しいですね
ガタタッ
ガコッ…
次の住まいでも
きっと良い
出会いがある
はい…
大変な役を
押しつけて
すまない
すぐに
助け出して
やるからな
王都まで
しばらくかかる
少し揺れるが
寝たほうがいい
ガタタ
カコッ
……
どうか
したか？
ガバッ
…いえ
なんでも
ないんです

ガラ
ガラガラ
……
私……
なんで
こんなに
何もできないん
だろう……
終
もう…いていかれるのはいやなんだ

第十三回

中世に誕生した異端審問の実態

異端審問というシステムには、思想や信仰が異なる者を排除するという側面があり、政治利用されることもあった。

非常に強い権威をもつ教会が相手とあって、冬寂王もうかつに動けなかった。

政治や統治の手段として利用された異端審問

異端審問とは、中世以降のカトリック教会において「異端」の疑いをかけられた者を裁くために誕生したシステムだ。なにが異端とするかは時代ごとに異なるが、「その時代において、正統から〝外れている〟教義や教理」と考えれば、ほぼ間違いない。

そもそも異端審問が活発になったのは、11世紀頃から南フランスで「カタリ派」と呼ばれる人々の勢力が増大したことがきっかけだ。カタリ派が、堕落した聖職者にかわってより厳格な教義を掲げていたこともあり、教皇（カトリック教会の首長）も当初は説得してカトリック教会に復帰させようと穏便な対応をとっていた。

ところが、南フランスの領主や司教たちは、自分たちの所領に教皇の影響が及ぶことを嫌ってカタリ派を支援。これにより、教会内部のことだったこの問題は政治問題へと性質を変え、南フランスの支配を進めたいフランス王と地元領主たちの間の戦争にまで発展してしまった。

この間、カトリック教会は勅書を発行し、異端審問を行うようになる。当初は司教が巡回する程度の緩やかなものだったが、やがて領主たちが有罪とされた者を引き取って処罰するようになると、より厳格な制度へと変化していった。そして、そのなかでも「スペインの異端審問」は、政治色を強く帯びた異端審問として特徴的であった。

15世紀頃のスペインは統一されたばかりで、形だけカトリックに改宗したイスラム教徒やユダヤ教徒が多かった。スペイン王は、国内をより強くまとめる手段として異端審問に着目すると、教皇に働きかけて独自に異端審問を行う許可を取得。それを利用して、イスラム教徒やユダヤ教徒を排斥して国内の統一を図ったほか、債務逃れを目的にユダヤ人金融業者をも追害していった。この結果、2千人ほどが処刑され、異端審問に対する悲惨なイメージを印象づけることとなった。

なお、異端審問とともに語られることがある「魔女狩り」だが、異端審問はあくまでキリスト教内における異端者を処罰するものであるいっぽう、魔女狩りの対象はキリスト教徒以外の人々であり、根本的に別物である。

南部諸王国の力を削ぐため、聖教会は異端審問を使い「学士」を取り除こうとしたのだ。

最後のひとり

鉄腕王！
出立の準備が整いました
うむ
ザッ
ザッ
気が進まぬが…
教会からの正式な要請を無視するわけにもいかん
カシャ…
お主も赴任したばかりで大変だろうが
あとのことは任せたぞ
ハッ
承知したでござる

ざわ…
ざわ…

あれが使者か…
ざわ
ざわ
おお

かなり人が集まっているな
付近の村からも詰めかけているようですな
警備を増やしましょう
ざわ
ざわ
ざわ

あんな目立つところで引き渡しを…？
ああ
見せしめにするつもりだろう
私も修道会の代表として立ち会わさせられる
腹立たしいが…
まおゆう
魔王勇者
第十四話

そろそろ時間か
済まぬが…
す…
はい
ポゥ
……
ハアアア

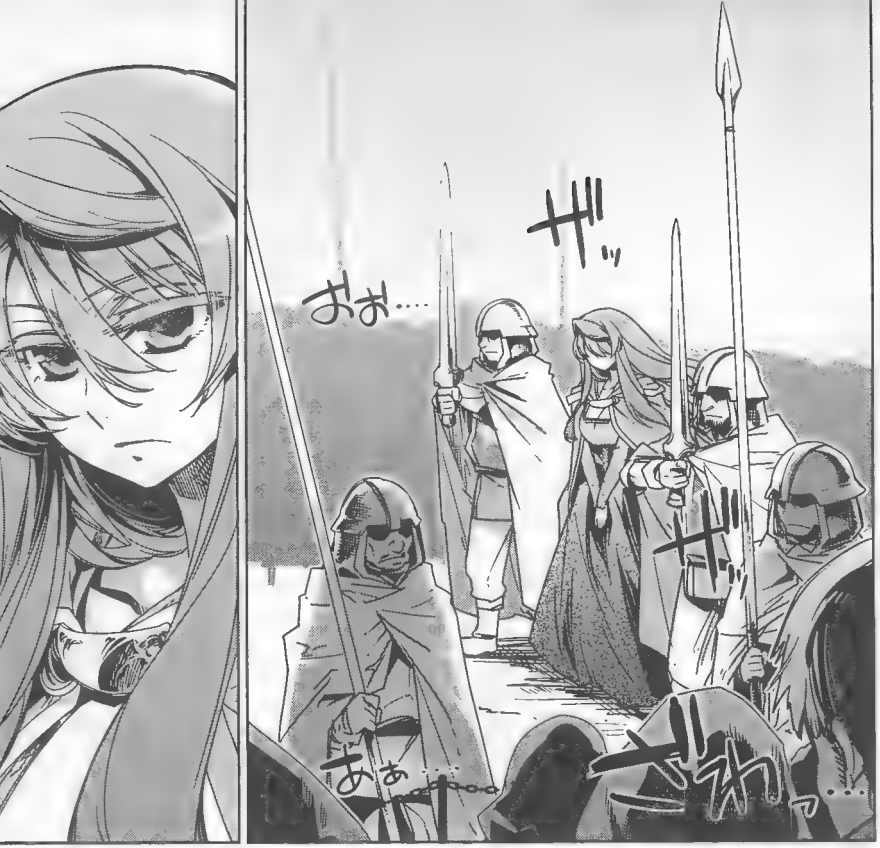
第十四話 Archenemy and Hero 14th chapter

私は“人間”だから

使者殿
聖王都よりの遠路
大儀であった
冬の国の
冬寂王である
ざわ…

口上は
結構です
彼の者は
捕縛したの
でしょうな？

ざわっ……


おぉ…
ガッ
ガッ
あぁ…
ざわっ…

あれは確かに学士様だよ！
そうだ
俺の息子も畑のことを教えてもらった
うちの豚だって学士様にみてもらっただぁ
学士様が異端だってそんな！
精霊様お慈悲を…！

どうだ？
ボリ ボリ
本人ですまちがいありません
…間違いなく紅の学士なる者本人のようですな
ご協力に感謝しますぞ
ああ
…うむ
この者が…

なんだ
その態度は!?
貴様は
裁きを受ける
身なのだぞ!?
どよ…
這いつくばれ！
枷を受けよ！
異端の末路を
民草に
示すがいい！
これは
反抗的な…
まさに
異端者の目
裁きが足りぬと
見える――！

……
冬寂王
女騎士殿
よもや
貴方がたは
異端の女に肩入れ
しますまいな？

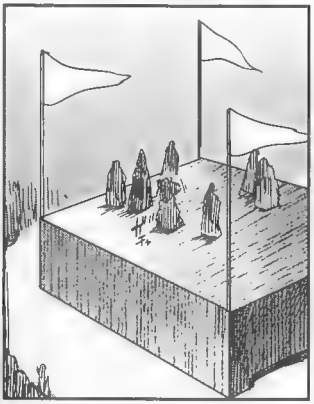
それで
よいのです
南部諸王国にとって
中央との関係をこじらせて
良いことなど ひとつも
ないのですからね
我らは魔族の脅威の前に
強固かつ永続的に
手を組む必要があるのです
そうでしょう
王よ？

ぎゅうう…
ガシ
ぐ
ざわ
ざわ…

学士様…
学士様
嘘だよな？
異端だなんて
そんな…
ざわ
ざわ
あんなに
血が…
おねえちゃん
どうして
ぶたれてるの？
わるいこと
したの？
オラ
もう
見てらんねぇだ

くそ…っ
これ以上は
させないからな…！
カチャ…
殺取り代の言ってられるか…！

……？



なにか
申し開きでも？
精霊の教えに背く
悪魔の使いが！
ゴゴゴ
ゴゴゴ…

私は——
私は
魂もつ者として
皆さんに語らなければ
ならないことがあります

…私は
私は
農奴の子として
生まれました
学士様が!?
そうなのかや!?
ざわっ…
えぇ
オラたちと
いっしょの
農奴だって!?
農奴の生活は
苦しいものです…
手に血をにじませ
耕す土地は
自分のものではなく
得られる
大地の恵みは
自分のものではない
自らの命すら
自分のものでは
ないのです

私は七人の兄弟姉妹の三番目として生まれました
…ですが生き残ったのは私と妹の二人だけです
怪我に…病に…そして飢えに倒れていく兄弟たちに私はなにもできませんでした
ある時逃げ出した私たちに転機が訪れ
それは運命の輝きをもっていましたが
私はずっと悩んでいました
ずっと…

運命は暖かく
私に優しくしてくれました

――安心しろ
と

何とかしてやる
…と

あんなにも優しい言葉を聞いたのは初めてでした

しかし
――…

貴族の皆さんっ
兵士の皆さんっ
開拓民の皆さんっ
そして農奴の皆さんっ
私はそれを拒まなければなりません
あんなに恩のある優しくしてくれた手なのに

優しくしてくれたのに…
優しくしてくれたからこそ
拒まねばなりませんっ
——私は

私は
〝人間〟だからです

私には
まだ自信が
ありません
この体の中には
卑しい農奴の血が
流れている
じゃないかと
そうあざ笑う
私も 確かに
胸のうちにいます

しかし
だとしても
だからこそ
私は
人間だと
言い切らねば
なりません
なぜなら
自らを
そう呼ぶことが
人間である
最初の条件だと
私は
思うからです

夏の日差しに
頬を照らされる時
目をつぶっても
その恵みが
わかるように
胸の内側に
暖かさを
感じたことが
ありませんか？
他愛のない優しさに
幸せを感じることは
ありませんか？

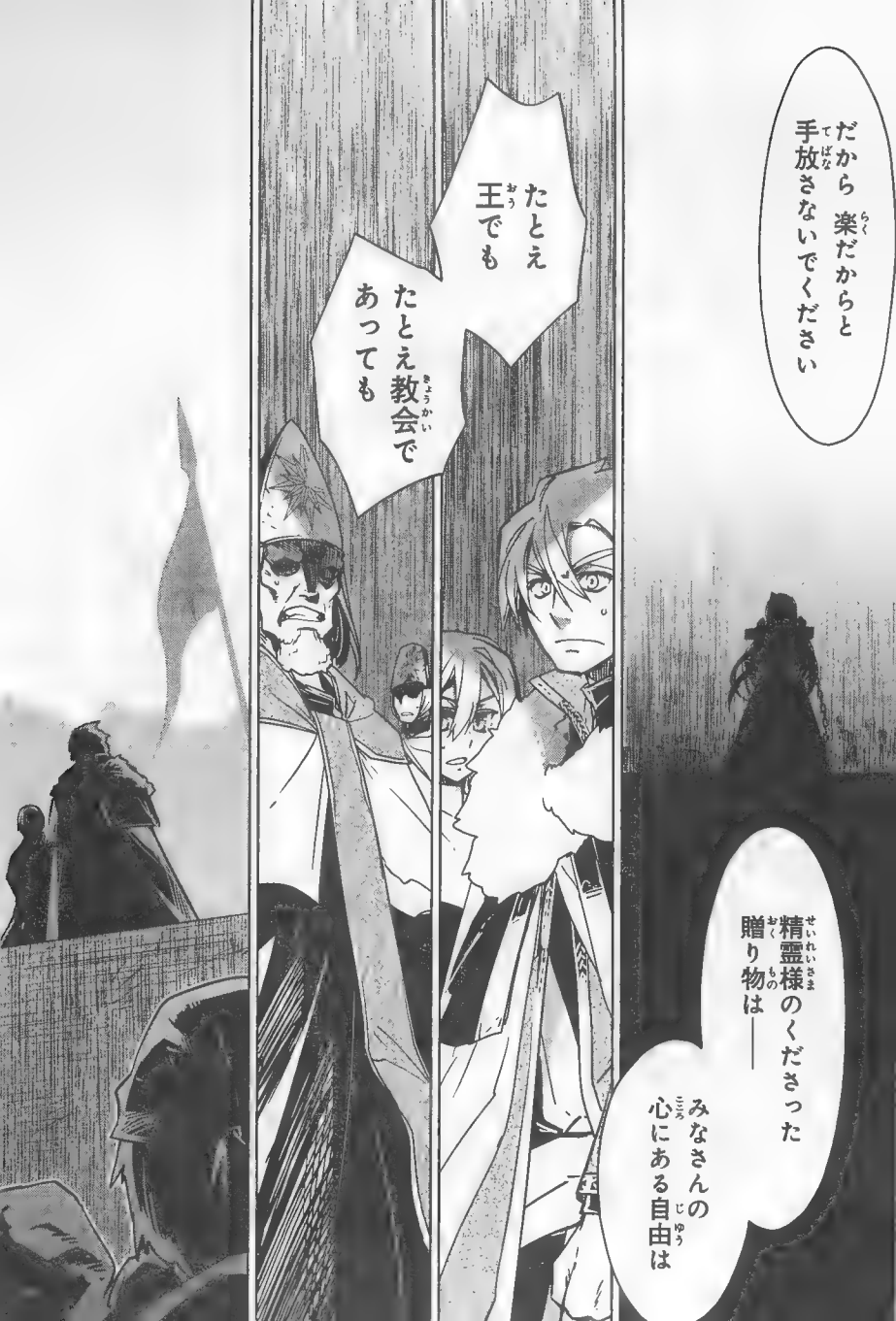
それは皆さんが
光の精霊の愛し子で
人間である
証明です
望むこと
願うこと
考えること
働き続けることを
止めては
いけません

精霊様は…
精霊様は
その奇跡をもって
人間に生命を
与えてくださり
その大地の
恵みをもって
財産を与えて
くださり
その魂の
欠片をもって
私たちに
自由を与えて
くださいました
ざわ
自由？
ざわ…
自由だって？

異端めっ！
農奴ごときの卑しい口で精霊様を語るなッ！
ビクッ
異端かどうか…
農奴かどうかなど
問題にもしていません
私は人間として…
大地の恵みを
受けた者として
仲間に話しかけているのです

自由？
ざわ
ざわ…
自由ってなんだべ？
そんなものが…オラたちにあるだべか？
学士様！
農奴のオラにも…自由ってもんがあるんだか!?
そうです
それは より善き行いをする自由
より善き者になろうとする自由です

精霊様は
まったき善として
人間をつくらずに
毎日ちょっとずつ
頑張るという自由を
与えてくださった
それが
喜びだから


だから 楽だからと
手放さないでください
たとえ
王でも
たとえ教会で
あっても
精霊様のくださった
贈り物は――
みなさんの
心にある自由は

冒すことのできない
ひとりひとりの
宝物なのです！

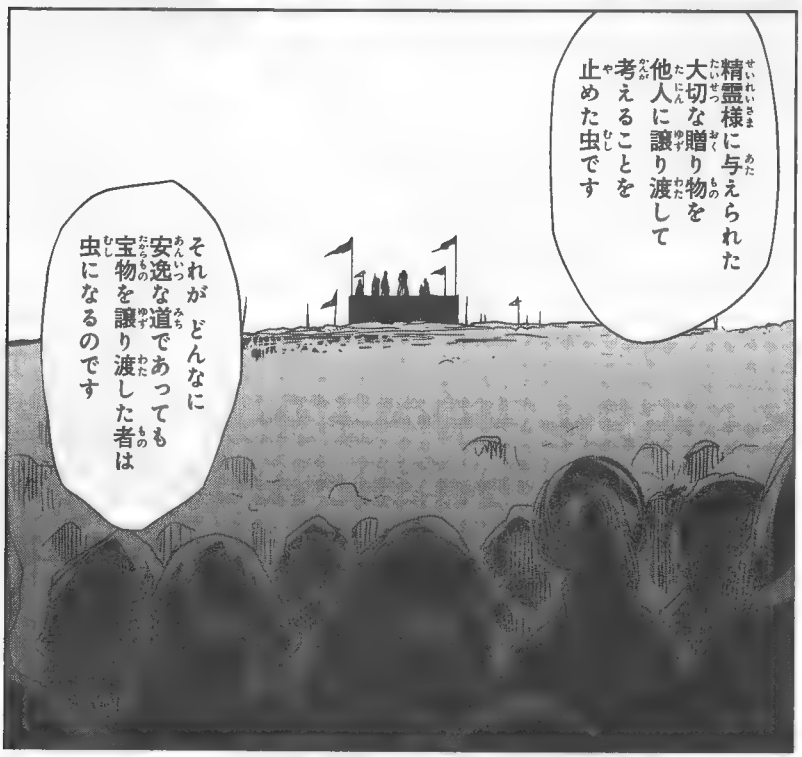
……ッ
異端めッ！
その口を閉じろッ!!
閉じません
私は〝人間〟ですっ
もう私はその宝物を捨てたりしない
もう〝虫〟にはもどりませんっ

たとえ
その宝を持つことが
辛く 苦しくても…
あの冥い微睡みに
戻りはしないっ
光があるから
優しくしてもらったから…!

ハァ
……チッ
ハァ
ハァ
おいっ
この異端の売女めに石を投げろ！
ざわ…
ざわ…
民草たちよ
この者に石を投げ口を閉じさせよ！
ぼっ
石を投げない者はすべて背教者だッ！
ざわざわ
投げる訳ないっ
でも…
投げようと思うなら投げなさい
ざわっ……

家族を守り
自分を守るために
石を投げることが
必要な時も
あるでしょう
私はそれを
責めたりしません
むしろ
同じ人間として
誇りに思います
貴方が石を投げて
救われる人がいるなら
救われるべきなのです
その判断の自由も
また人間のもの
その人の心が
流す血と
同じだけの血を
私は
この身をもって
流しましょう

しかし 他人に
言われたから
命令されたから
という理由で
石を投げると
いうのならば
その人は
虫です！


精霊様に与えられた
大切な贈り物を
他人に譲り渡して
考えることを
止めた虫です
それが どんなに
安逸な道であっても
宝物を譲り渡した者は
虫になるのです

私は虫にはならない
私は〝人間〟だから
ん？
何をしておるかッ
投げよ！
打ちすえよ！
自らの愚かさを思い知らせてやれ！
ヒュッ
ヒュ…
ゴッ…
ゴッ…
ゴッ…
……？

止めよ！
石を投げるのは
この汚れた女にだ！
能のない
農民風情がぁ…
貴様らも
すべて背教者だ！
もはや
異端は明白！
即刻
その娘の首を
切り落とせッッ!!

学士様が
ごめんなさい
メイド長様
一度も
呼べなかったけど…
学士様の言葉が
勇者様が
まかせておけって
言ってくださったのに…
できませんでした
先生って呼んでも…
許してくれますか？

わあっ
王様だ!!
冬寂王だ
冬寂王ーー!!

な……
何をする気だ!?
貴様らッ
姫将軍ーー!!
わぁぁぁ
立てるか?

私は
この国の王だ
だが しかし
その前にひとりの
人間でもある

私は中央に繋がれた
狗の国の王子として
過ごしてきて
その苦しさ 辛さ
おぞましさを
わかっていた
つもりであったが…
いつの間にか
心まで虫に
なっていたようだ

…このような娘に
教えられるとは
己が不明を
恥じるばかりだ
…そして
我が国の民の心に
このような誇りが
育っていようとはな
わぁ
あぁ

精霊様は
仰られた
貴方は罪を
治めなければ
ならないと
罪を犯す自由も
また人間に与えた上で…
な…
何を言って
いるのだ

我が冬の国は
紅の学士に
正式なる
保護を与える
湖畔修道会は
紅の学士を
聖人として
認める

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
王様が学士様をお守りくださった！
やはり学士様は異端なんかじゃなかっただなや！
修道会の人が言ってくれたな！聖人様って！
そうだなや
聖人様だ！
オラたちの学士様は聖人様だなや！

かえれ！
けえれ！
いじわるな使者は国へ帰れ！
ゴッ
ゴゴゴゴッ…
やめ…

お引き取り願おう使者殿
これもまた教会の目論見のうちなのであろうが…
以降は別の形でお目にかかろう

覚えておれ！
中央教会に背いて
地上に存在できると
思わぬことだな!!
ゴゴゴ
ゴゴゴ
ゴゴゴ
……
おれ
わー
やった
魔王…
メイド姉が
すげぇことを
やったよ
俺の出る幕なんか
なかった
本当に
すごい娘だよ
あいつは
魔王
お前も…今
お前にしかできない
戦いをしているのか？
ドン

終 第十四話

第十四回

人々を区切る見えない線「社会階級」

階層社会に生まれた人にとって身分階級はあること自体が当然。それを覆すような思想には、なかなか到達できなかった。

制度として定着した社会階級の最下層には、人口の大半を占める農民や農奴が属していた。

制度化された役割分担が逃れがたい階層を生んだ

「まおゆう」がモチーフとしている中世ヨーロッパは、階層的な社会だった。階層社会が誕生した経緯は、第1巻収録の当コーナー第二回で解説したとおりで、共同体を統率するリーダーなどが領主となり、さらに時代が進んで貴族や王が誕生すると、こうした階級が「封建制度」のもとで定着した。

封建制度下での身分は、大きく3つに分けられる。「王侯貴族や騎士」「聖職者」そして「農民」である。ただし、土地は基本的に領主や地主のものだったので、農民の大半は「農奴」だった。農奴は財産を持つことは許されていたが、育てた作物のほとんどは領主のもの。職業選択の自由もなく、実質的に自立への道は閉ざされていた。農地は耕す者がいなければ意味がない。領主たちが農奴を自立させなかったのも労働力を確保するためで、そのかわりに領主たちは彼らを保護する義務を負っていた。

社会的に見ても、農作物をつくる人員は必須だ。現代の会社にも役職という形で役割分担に近い階級制度があるように、特定の仕事に携わる人員を一定量確保するという意味では、階級制度は有益だったのである。貨幣経済が発達した18世紀には農奴も廃止されていったが、これは社会に余裕が生まれたからこそできたことだと言える。

とはいえ、階層社会が長く続いたために生まれた弊害もある。そのもっとも大きなものが、身分による差別だ。階層社会はどうしても下位の層に不満が溜まりがちになるもの。そこで不満のはけ口として、階級制度の外に「最下層の人々」を置く事例も多く見られた。

近現代では、インドでカースト制度の最下位に置かれて差別された「不可触民」がまさにこれにあたり、ほかにも白人の有色人種に対する差別も似たような要素を含んでいる。

「まおゆう」では、メイド姉が属していた農奴がこれに該当している。そして、弾劾の場で彼女の口から発せられた言葉には、アメリカの公民権運動や、インドでの仏教復興運動と共通のものが含まれていると言えるかもしれない。そして、それ故に、階層社会が当たり前だった人々に衝撃を与え、物語の大きな転換点となり得たのである。

「人間として大事なもの」が何かを訴えるメイド姉の言葉が、人々の心に新たな光を灯した。

私は私の

わあああああああ
ううっ
感動です
!?
だ…
誰ですか？
お台所は
どこ!?
厨房ですかぁ？
あっちに…
連れてって！
どうするん
ですかぁ？
きっとみんな
おなか空かせて
帰ってくる
だから
私は…
美味しい料理を
つくって
待ってるの

まおゆう
魔王勇者
第十五話

第十五話 Archenemy and Hero 15th chapter
それがはじまりだ

冥府宮には
歴代魔王たちの
魂がすべて
封印されている
魔王は その魂から
知識と能力を受け継ぎ
最強たる力を
手に入れるのだが…
しかし 同時に
自身の魂が
汚染されていく
殺せ
人のすべてを
殺すのだ
殺せ
世界のすべてを
我が魔族の
ものとせよ

今までは
ちょっとだけ入って
魔王たちの魂を
鎖めてきたが…
さすがに二年も
放置していては
荒れているな
はい…
大丈夫ですか？
まおー様…
残留思念なぞに
乗っ取られる
つもりはない
…だが
もしも
ぼっ
ぐあ…

ここから
出てきた私が
私ではなかった
時には――…
はい
その「魔王」
討たせて
いただきます
…一命に代えて

殺せ！
奪え！
その「器」に
魔王の力を
受け入れろ！
鉄を引き裂く
爪をやろう
大地を灼き尽くす
息吹をやろう
残念
だったな…
私は…
売約済みだ

身も心も…
私の…すべて
そういう…
契約…だ

…ゆうしゃの
くろかみは
もふもふ
なのだぞ？
おひさまのように…
あたたかいのだ――…
あー
まったく
どうして
こんなことに
なっちまったんだ…
わしゃ
わしゃ

すみません…
おとなしく捕まるはずの私が勝手をしてしまったせいで…
いやメイド姉はいいんだ
むしろ辛い役目をよくやってくれたよ
俺が言いたいのは…
どうした勇者！心配事か!?
大丈夫だ私がついている！
あはは
あらおいしい
こちらの料理は？
ベーコンと馬鈴薯炒めチーズがけです！
こいつはいい！酒が進むわい
はは

なんで
ここで酒盛りが
始まってんだ
ってことだよ!!
しかも、なんで
王様増えてる訳!?
ガはは
ぼんっ

まぁまぁ
この程度
南部諸王国では
気付け程度の
たしなみですわ
くぴぴ
ワシらも
学士捕縛の場に
呼ばれておったのよ
見せしめにするつもり
だったのだろう
面目ない…

これはいけますね
うん また腕を上げたね
えへへ
勇者ぁ～
あ～…
こいつもう…
勇者殿も一杯いかが？
鉄の国の火酒だ 温まるぞ？
お前ら今の事態わかってんのか？
事態は もはや異端がどうという段階でもないしのう
うむ …しかし
ええ

中央の狙いは
「異端」という
言いがかりを軸に
我らの結束を脅かし
弱体化すること
だったのでしょうが…
つまり
問題の本質は
「我らが
中央に対して
独立するか否か」
という問い
だったわけだ

しかし
メイド姉くんの
演説で風向きは
大きく変わった
あの演説は民たちの
自由への意識を
目覚めさせた
その結果――

「独立を希望する民に
国がどう向き合うか」
という問題に
なってしまったのだ

……
すみませんっ
しゃあ
大したものだったよ
ホホホ
感動しましたわ
あの演説の衝撃は
決して
小さくなかった
そして
燎原の火のごとく
勢いを強めて
燃えさかるだろう
…この流れを
止めることはできない
――となれば
ワシらとしてもな
ええ
せめて民と
共に歩みたい
ニヤくん

じゃあ
それはそれとして
これからどうするか
考えなくちゃな
方針とか
作戦とか…
ムム…
ポン
勇者
なにか
いい案が？
勇者の純潔は
私が守る！
キリッ
ドヤァ…
ダメだコイツ…
早くなんとか
しないと…
とりあえずの
対応としては…
「農奴の
解放政策」
でしょうね

馬鈴薯のおかげで
扶養人口は
倍増していますから
今なら
さほど無理なく
方向転換ができると
思います
意外に
まともな意見だ
中央への
対応は
どうされる？
戦争は
避けがたいと
思われるが…
そのへんの荒事は
殿方に
お任せします♪
あ
おかわり
お願いしまーす♪
フフン…
ここらで
真打ちの
出番だな

まずは
三国連合軍で
北の平野に
前線を敷く
領土の収穫量を
減らさぬため
出戦となろう
余剰食料を
元手に 傭兵も
雇い入れる
こんなことも
あろうかと
中央からの
義援金を
少しずつ
蓄えてある
おおお
はじめて
堅実な言葉が！
そして
中央連合軍を
北の平原で
迎え撃つ
過去の遠征軍の
規模からして
5万前後といった
ところだろう
これを
緒戦で撃破！
ふむふむ

そのまま北上し
駐留軍を撃破！
城を攻略！
恭順の意を示す国家を
次々と組み入れ
連戦連勝！
とどろく
我が無敵鉄鋼
からくり部隊！
ドドドドドドドド

そのまま
聖王都に進撃！
敵は最後の抵抗に
数々の新兵器を
繰り出すが…
ゴゴゴゴ
我らが
正義の力の前に
なすすべもなく
王都陥落っ！
めでたし
めでたし
だ！
～fin～

おおおー
パチパチ
パチパチ
それで結局どうする？
うむ…難しいな

おー
ひさしぶりだな
ご無沙汰です先生

中央はすぐには軍を発しないのではないでしょうか

ですから当面は外交圧力で…という形になるのでは
なるほどな

中央の意図は南部諸王国を屈服させることであって滅ぼすことではありません
中央と南部の戦争中…あるいは戦争が終わって
疲弊した状態にもし魔族の侵攻があれば対応できません

！
…いや
まさかな…

？
なにか気になることでも？
いやなにありえないとは思うのだが…

中央が魔族と手を結ぶなどということがあれば
軍事行動も自由度が高くなりこちらへの圧力も容易にかけられよう……とな
ざくざく

いや すまない絵空事のようなことを言ってしまった
そのへんは俺が偵察して事情を探っておくよ

お出かけか!?お伴するぞ勇者！
がばぁ

ねてろ
スコン
ああん

えーっと…
何から
手をつけりゃ
いいんだ？
こんな時
あいつなら
どうする？
あいつなら
どう考える？
ムムム…
表面を
考えちゃ
ダメだ
構造と
利害関係を…
プス
プス…
プス…
ガーッ!!
ぎゃぁぁー!?
とたたた
じゃーん！
これが
パイでーす！
おおー……

そもそも
なんで
戦ってるんだ
俺たちは

領土争い
…なのか？

豊かに
なるための…

「豊か」って
なんだっけ…？

――つまりだ
富を貯めこむってのは
「お金持ち」にはなれても
「豊か」にははなれないんだ

お金を渡して
使ってもらう

物もお金も
流れがよどみなく
太いことが
「豊か」なんだよ

つまり
それは
その…

「関係がある」
ってことだよな

物を売ったり
買ったりして
流れて…

それが
「豊か」ってこと
だろう？

じゃあ
俺たちの世界は
「豊か」になって
ないんじゃないか？

だって
閉じてるんだから

…教会が
やってること

聖王都が
やってること

それは
なんなんだ？

世界を限定して
狭くして…
その意図は
どこにあるんだ？

黄金色で
綺麗だのう！

うふふ

ほう…

これは…
ウズラの卵と
肉ですか？

ホカ

ホカ

つまり それは…
教会がなりたいのは
「お金持ち」なのか？

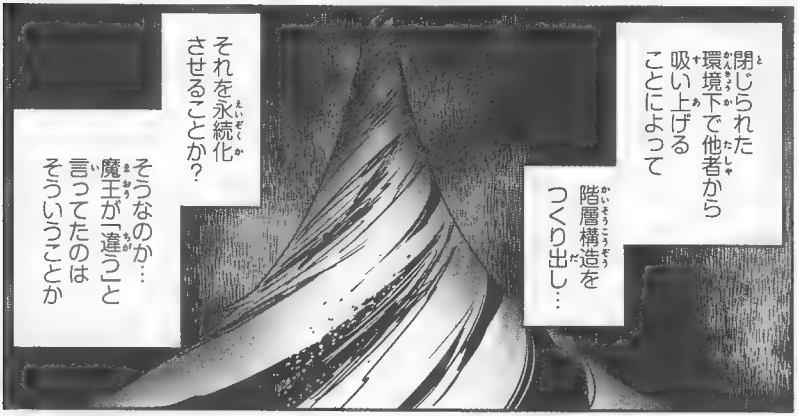
それは
「富の独占」

——いや
富だけじゃない

知識も
人気も
権力も…

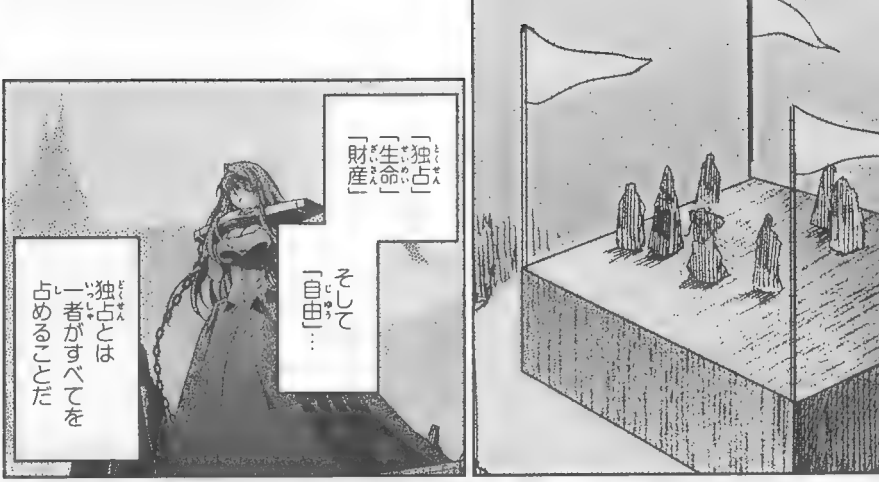
「独占」するって
ことなのか？

おもしろいですね
サクリとした
感触が…
そうだよー
洋ナシのも
あるよー♪
おお
こっちは甘くて
美味しいですね


閉じられた
環境下で他者から
吸い上げる
ことによって
階層構造を
つくり出し…
それを永続化
させることか?
そうなのか…
魔王が違うと
言ってたのは
そういうことか

ゴッ
ゴッ

勇者…さま?


「独占」
「生命」
「財産」
そして
「自由」…
独占とは
一者がすべてを
占めることだ

それは
「豊かになること」
ではなくて
「他者を
貧しいままで
いさせること」だ
一者とは…中心
集中する点
積み上げた
石組みの頂点
――――…

はい
勇者のおにーちゃんはどっちを食べる？
つんつん
……
どっち…？
しょっぱいのとあまいの！
どっちでもいいんだよー
どっちもおいしいよ♪
――!!

公布を出そう

「南部諸王国三か国は湖畔修道会を国家宗教として認める」…と

――「正当なる光の精霊信仰だ」と

そうだよな！別にひとつしか存在しちゃいけない決まりはないし！

な！

二つあってもいいじゃんな！

選べた方が幸せじゃん！

うーん

うーん…

ぺこぺこ

そう思うだろ女騎士！

そして
それをどんどん
刷らせよう！
ほら 例の
印刷機でさ！
湖畔修道会の
教えも載せて…
修道会公認の
聖人である
学士の演説を
表紙にしてさ！
まお正体は
メイドがねだった
そうだ
農業技術だって
載せちまおうぜ！
教科書の
代わりにもなるし
なんだったら
種芋の引換券を
つけちゃうって
どうだ!?

それに
どういう意味
あるのだ？
頂点を二つに
するのさ
教会を二つに
それが
はじまりだ
？

あはははは…

あはは
はは
そうですか！
こんな手を
打ちましたか！

仕掛けたのは
誰ですかね
これは…
あの人かな？
いや
あの人は
ああ見えて
保険を忘れない
人ですから
この破天荒さは
勇者ですかね

もうひとつの教会
…これはすごい
ぴん

教会のお偉方の
驚きは計り知れない
ものでしょうね
それはもう
恋したり
青くなったり…

農奴の解放と
馬鈴薯の配布を
謳った この紙…

ハンコのようなもので
刷られているらしく
大量に出回っていますね

これにより
南部に近い国から
かなりの数の農奴が
流入しています

ふむ…

「同盟」内部の
状況は
どうです？

十人委員会の
大主教派は三人
三か国派は二人
残りは中立です

大主教派

三か国派

中立

貴族子弟さん…
彼の弁舌で
大主教派を
ひとり寝返らせ
二人を中立まで
もっていきました

なかなかやる
ものですね

ちなみに
みな中立
ですよ

…面白くなってきましたね
この拮抗には価値がある
資産状況はこちらにまとめました
ふむ…
二つの教会…中央と南部の対立…
農奴の解放と…馬鈴薯の異端指定…
委員…？
まだ機は熟していませんが…
こちらも動き出すべき時のようですね

流入してきた民ですが…
昨日は十二人ですね
だんだんペースが鈍ってきたな

言葉のない者に言葉を教えるようなものだからな
だが
あまりペースが遅いと冬が終わってしまう

やはり「自由」という考えは受け入れられないのでしょうか…
難しいってのはあるだろうな

早い時期にある程度の数を取り込まないと
結局は既存路線の強さが出てしまうだろうし…
なにせ数が圧倒的だ
しゃべれない…

文字を読むってのが意外と難しいのかもなぁ
説法士を派遣しては
いるのだが…
湖畔修道会全体で
五十人もいないのだ
どうも本隊はカバーできない

説法でなくともいいのではないですか？
我が国は吟遊詩人のふるさとです
彼らに報酬を出して諸国で歌ってもらうのはいかがでしょう
歌は強いですよ？
修道会の教え
三か国の行い
我らが国の良いところ…
旋律にのせて各国に響かせるのです
文字が読めなくとも
言葉の意味がすぐにはわからなくとも
節回しさえあれば耳に——心に残るものです
吟遊詩人が立ち去ったあとでも歌の響きは続くでしょう

それは
いい考えです！

どれくらいの人数が
いるんですか？

実力を
問わなければ
五百人ちかくは
いるかと

よし
さっそく
依頼しよう

旅の支度金は
こちらで
用意しても
かまわぬぞ

そうですね
…いっそ

吟遊詩人には
この国宛の
紹介状を書かせて

たくさんの開拓民を
送り込んでくれた
吟遊詩人には
開拓民ひとりにつき
銀貨一枚の褒賞を
与えるという
ことにしたら
どうでしょう

それがいいな！

えっと
なんだっけ

学士がいうところの
「いんせんちぶ」だ！

いんせんちぶ？

頑張ったやつに
金を出すみたいな
意味だよ

あの…

今回の目的は戦争じゃないんですよね？
ああそうだ
できれば戦争は避けたいと思っている
いつ魔族の襲撃があるかわからんしのぅ
では
教会とは喧嘩をすべきではないと思うんです
ふむ…？
どういうことだ？
たぶん教会の人たちは修道会の説法士さんや吟遊詩人さんを
悪しざまに罵倒してくると思うんです
嘘つきだとか悪魔の使いだとか背教者だとか…

そこで喧嘩を
買ってしまったら
戦いになって
しまいます
人間同士で
戦いはしたく
ないですよね
ですから
説法士さんや
吟遊詩人さん…
これから
印刷する紙にも
教会を非難する
ような内容は
盛り込むべき
ではないと
思うんです
とはいえ
引っ込んでいたら
やられっぱなし
ではないか
あいつらは
根性が
曲がってる!!
そうかも
しれません
けれど
大部分の信仰者は
本当に光の精霊様を
信じているだけの
普通の人々なんですよ?
そういう人まで
争いに巻き込んでも
益はないはずです
……ッ
そうだな…

むしろ褒めていいと思うんです
光の精霊様は尊い存在です
正直勤勉
平和
そういった点では同意ができると思うんです
ですから中央の聖教会も否定せず
その信仰を守っている人も尊重すべきです
フム
それでは開拓民たちを勧誘できないのでは？

そこは
手法の差で
表現するんです

「南方の荒地は
まだ開拓されて
いませんよ」

「そこには
苦労もあるけれど
機会も
ありますよ」って

農地を手に入れる
機会は精霊様が
くれたものです

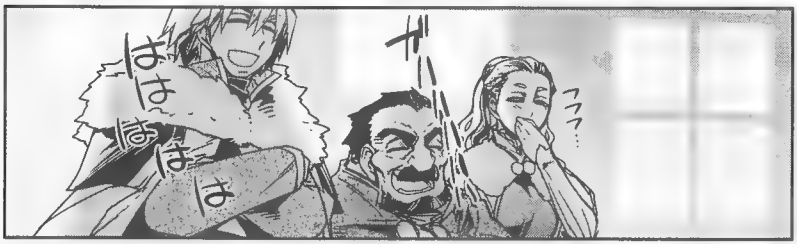
南部の諸王国は
新しい開拓民を
求めていて

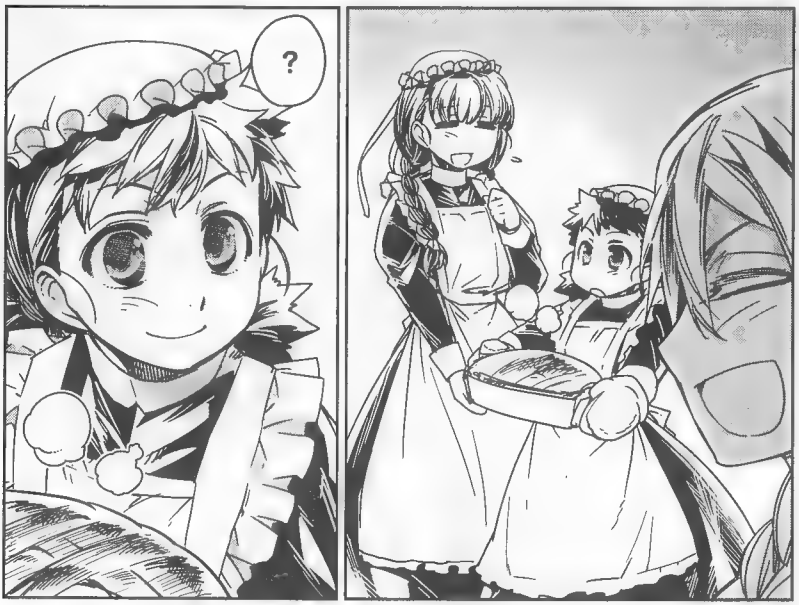
そこには
農奴制度はなくて
誰でも頑張って
働きさえすれば

飢えないだけの
実りが得られる…

租税もかなり安いぞ とか…
そうすれば引っ越してくる人もいるのではないでしょうか？
なるほど…
ふむ…
食と土地で誘致するのか
…夢見がちな理想論を唱えるかと思えば
嫌になるほど冷静な現実を武器として持ち出すんだな
あいつの教え子はみんなそうなるんだよなぁ
おねーちゃーん～

見て見て！
新作のパイだよー！
とたたたたた
お魚のパイなのー!!
食いしん坊の妹をもつと何かと考えさせられるんです


ははは
ガー
フフ…


？

第十五回

歴史上における吟遊詩人の実態

演奏や歌を歌う吟遊詩人は、
小説やゲームでお馴染みの職業。
その歴史上での実態を
フランスを中心に見ていこう。

多くの吟遊詩人が暮らす氷の国の女王は、歌が人々に及ぼす力を認識していた。

世界中に古くから存在していた吟遊詩人

吟遊詩人の歴史は古く、古代ギリシャ時代には「アオイドス」と呼ばれる吟遊詩人が存在した。当時の有名な叙事詩「イーリアス」や「オデュッセイア」の作者といわれるホメロスも、アオイドスだったと考えられている。ただし、一般にヨーロッパで吟遊詩人といった場合、10世紀から15世紀頃の「ジョングルール」や「ミンストレル」といった人々を指すことが多い。日本で使われている「吟遊詩人」もこうした人々を指す訳語である。

「ジョングルール」とはフランスの大道芸人や旅芸人の総称で、単独で演奏をしながら歌うだけでなく、ジャグリングや手品などの余興の伴奏も行いつつ集団で各地を移動していた。一方の「ミンストレル」は宮廷に仕えていた芸人たちのことで、宴会や日々の食事の際に芸を披露して場を盛り上げる存在だった。

ジョングルールやミンストレルは、階層社会のなかで最下層の存在だったが、彼らは騎士文化を反映して武勲詩なども伝承していた。ほとんど文字が読めない民衆にも文学を広めた点で、とくにジョングルールは大きな役割を果たしたといえる。

実際、彼らの芸能は高階層の人々にも影響を及ぼしており、11世紀から12世紀頃に南フランスや北フランスに現われた「トルバドゥール」や「トルヴェール」と呼ばれる吟遊詩人のなかには、貴族や騎士階級出身の者もいたのである。

フランス以外では、12世紀のドイツ圏に現われた、やはり騎士階級出身者を中心とする吟遊詩人の「ミンネゼンガー」があるほか、北イタリアで「ラウダ」と呼ばれるキリストの宗教歌を歌いつつ伝道していた、托鉢修道会の修道士たちも吟遊詩人といえるだろう。

また、ケルト人の社会にも神話や法律、歴史などを歌にして伝える「バルド」がおり、彼らの歌には力が宿ると考えられた。ゲームなどでお馴染みの「バード」はこれが元である。

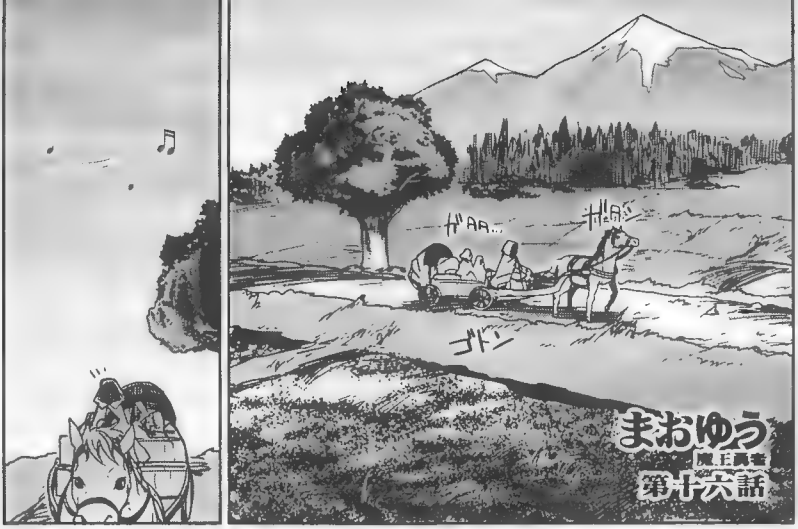
ヨーロッパ圏以外にも吟遊詩人的職業は数多く、イスラム圏やアフリカにも同様のものが見られる。「平家物語」の弾き語りで知られる日本の琵琶法師も吟遊詩人の一種と考えることができる。

こうしてみると、やはり歌の力は万国共通といえるだろう。

吟遊詩人が広めた歌の力によって、
多くの人々が南部諸王国に集まることになる。

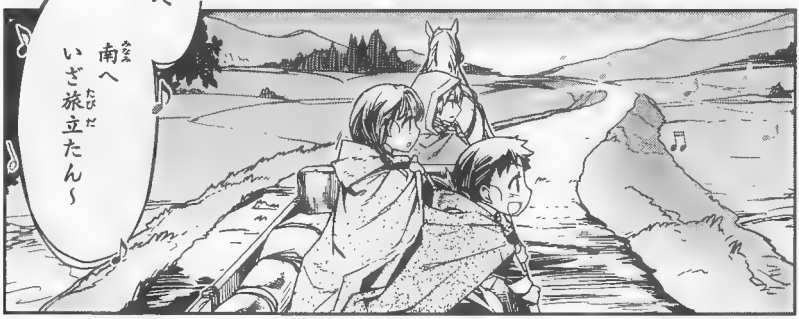
新たな交わり

馬鈴薯が馬車15台…と
ゴゴー
そいつかぶし馬鹿のやつ
大将！
確認終わりました
おう
大丈夫だゆっくり商いをしていってくれ
それだけか？何か袖の下に通さねばいかんかと思っとったのじゃが
開門都市の執行役って言ってもハリボテみたいなもんでね賄賂なんてもらったら首が飛んじまう
ヤバいなこの人
ガハハハハ
…ところで頼んでいた件についてじゃが…
アレね…
まぁ
何とかしてみましょう



まおゆう
魔王勇者
第十六話

南へ
南へ
実りを求め


南へ
南へ
いざ旅立たん～

お姉ちゃんたちが
考えた歌だ！
こんな
ところまで
もう…

歌の力というのは
すごいな
修道会でも
歌を取り入れて
みようかな

第十六話 Archenemy and Hero 16th chapter

金貨1枚で何ができるのか

しかたないだろ
鉄腕王も
氷雪の女王も
国に帰ったし

メイド姉妹は
歌の作成と
新しい交付の
原版作りに

氷の国と
鉄の国に
向かった

女騎士も
二人の護衛だ

鉄の国
冬の国
氷の国

ゆえに ここは
男パラダイス

なげかわしい
ことですなぁ

どぉーん

ニヤニヤ…

また中央からの
書状か…

ちらっ

ちらっ

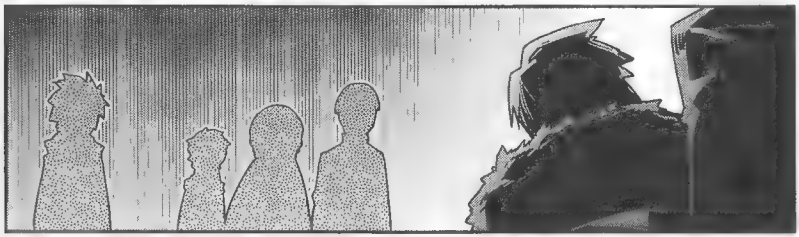
国有リストラ…

あれから国境の様子はどうだ？
流入してくる開拓民が徐々に増えてきています
吟遊詩人の歌の効果でしょう
やはり文字の読み書きが障害になっていたようです
ただ同時に
国境付近をはじめとして治安の悪化がみられます
山賊や開拓民同士のいざこざ
自由化した元農奴と地主とのトラブルは引きもきりません
常備軍の兵を一部組織して巡回衛視を行っていますが
手がまわりきらないのが現状です
わかった
人員の補充と強化を行おう
すぐに手配いたします

問題が山積みですぅ
どうにかならないんですか？
問題を一気に解決する策は…
ない
がくっ
これらについては奇跡の妙手はないのだろう
地道に問題にひとつひとつ対応していくしかない
はぁい
ですね
中央からの反応はどうだ？
ん
この通りだ
ばさっ

『早く謝れ』

まあ
中央各国が
それぞれ書状を
送ってきたので
こんな量に
なっているが
内容はだいたい
同じだ
なるほど…

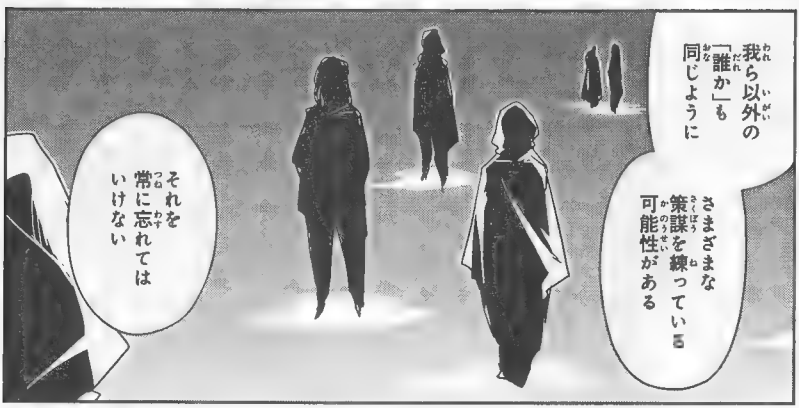


…そんだけの
ことを
こんなに…？
思惑や面子など
いろいろ事情が
あるのだ
これだけの数の国と
対立しているという
ことの証でもあるしな

とはいえ…
まだ
中央の出方も
脅しに
留まっている
とも言えますな

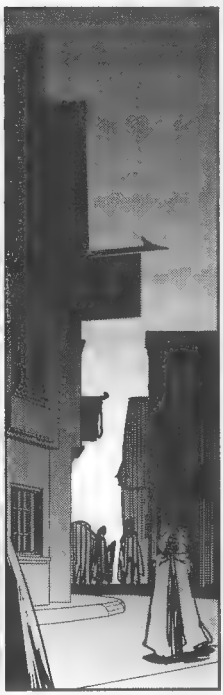
それなら
早期に戦争には
ならないかも
しれませんね
ホッ…

…何か
気になる
ことでも？
いや
この世界には
俺たちしか
いないわけじゃ
ないからな
うむ


我ら以外の
「誰か」も
同じように
さまざまな
策謀を練っている
可能性がある
それを
常に忘れては
いけない

中央で
何もなければ
いいんだが…

小麦一袋で
銀貨八枚!?
そんなバカな
値段があるかよ!!

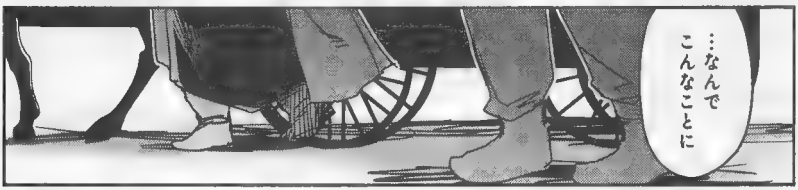


普段の2倍近いじゃないか
なんだってそんな値段に…
あんた買い物に来るのは久しぶりなのかい？
言っときますがどこに行ってもこんな値段ですぜ
いいかい？
へいらっしゃい

小麦を買いたい
いくらだ？
小麦一袋で銀貨八枚
挽きが粗い二級のものなら銀貨六枚半です
二級を見せてもらおう
ザラ
多少虫が混じっているな
今日日どこでもこんなもんです
なにせ品薄でね

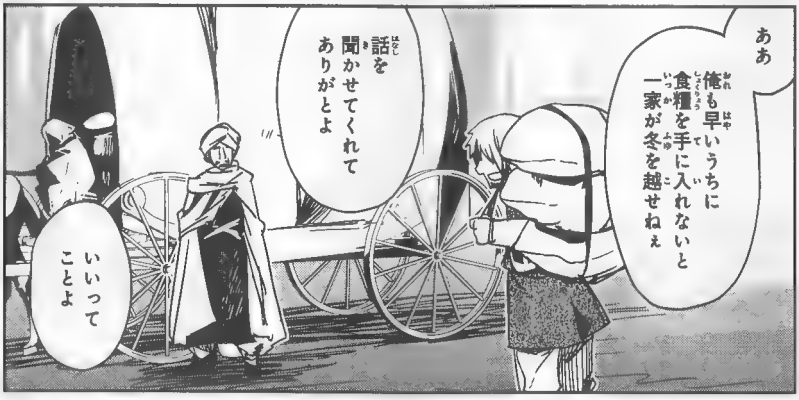
よかろう
二十五袋
積んでくれ
よしきた
売買成立だ
よいパンを出せ
ぽん
ぽん
どや
どや
どや
ッ
俺にもその
二級のをくれ
…一袋
銀貨七枚だ
な…!?
さっきは
六枚半って
言ったじゃねえか!
…お客さん
この二級の小麦
先週は一袋で
銀貨四枚だったんだ
この先も
どうなるか
わかりゃしない

私だって売らないで
取っておいた方が
儲かるかも
しれないんですよ？
くそッ
買う！
買うよッ

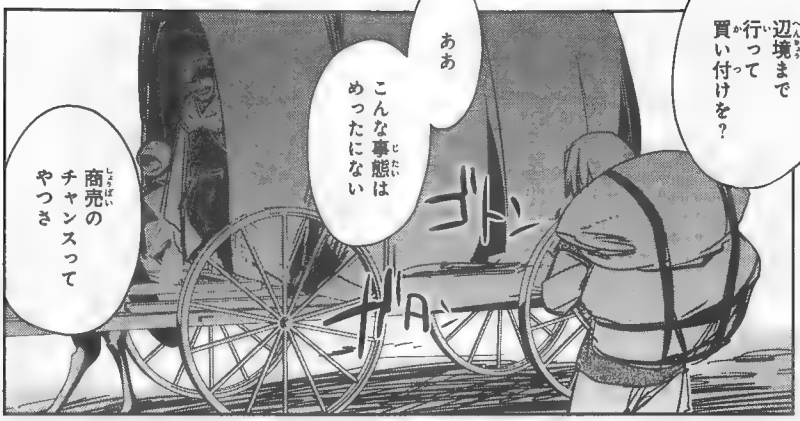

…なんで
こんなことに

小麦は多少
不作だったと
聞いてるが
ここまでのことじゃ
なかったろう？
私らも最初は
そう思ってたよ
だが
徐々に値段が
上がりはじめて…
ある時から
タガが外れた
ようにな
今じゃ
どこまで上がるのか
見当もつかん

小麦だけじゃない
大麦や豆や肉…
食べ物はみんな
値上がり中だ
小麦が食えない
となれば
他の物を食うしか
ないからな
でも…
どうして
そんなことに
そこまでは
わからん
できるのは
なるべく安いうちに
小麦を仕入れる
ことだけさ


ああ
俺も早いうちに
食糧を手に入れないと
一家が冬を越せねぇ
話を
聞かせてくれて
ありがとよ
いいって
ことよ

これから
どうするんだい？
中央の都市は
人が多い分
値上がりが早い
もっと辺境に
仕入れにいくさ


辺境まで
行って
買い付けを？
ああ
こんな事態は
めったにない
商売の
チャンスって
やつさ
ゴトン
ガラ

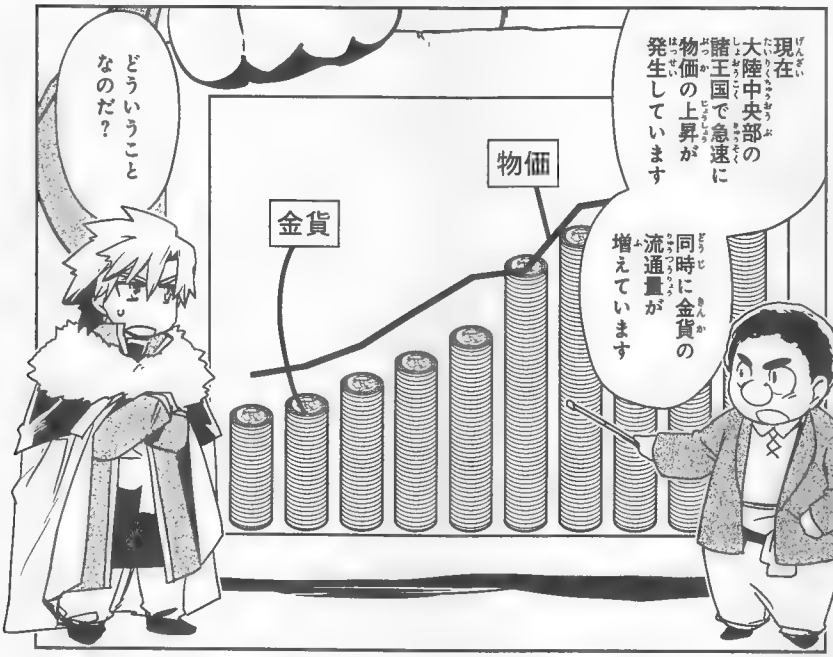
でも…
本当になんで
こんなことに
なったんだろうな…

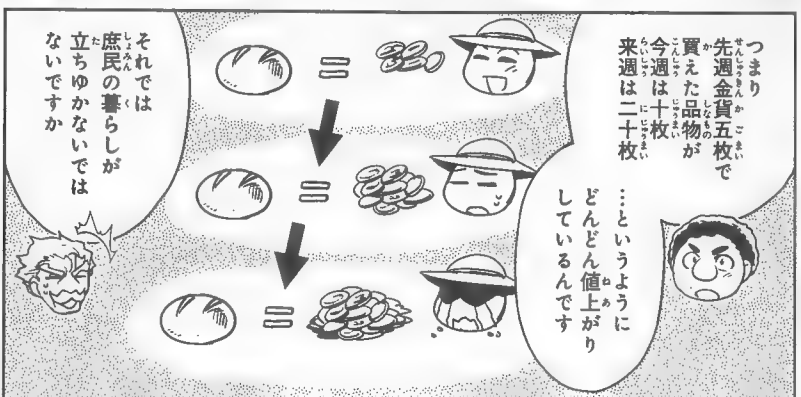
パカパカ

冬寂王！
どうしたのだ？
そんなに慌てて
緊急事態です！
すぐに対処せねばなりませんっ
何事だ？
まさか中央が軍を発したとか…？
こんなに早く…？

違います
税に関する
ことです
税？
税のことで
緊急事態など
起きるもの
なのですか？
火急の
事態です
道を誤れば
国が傾きます！
む…
そこまでの…？
よし
上奏文を
読もう
時間が
もったいない
読まないで
いいです
口頭で
説明します
ずいぶん
たくましく
なって…
王との
付き合い方を
学びました
まさに
成長ですね

物価
紙しばい…？
ぱちん


現在大陸中央部の諸王国で急速に物価の上昇が発生しています
同時に金貨の流通量が増えています
物価
金貨
どういうことなのだ？

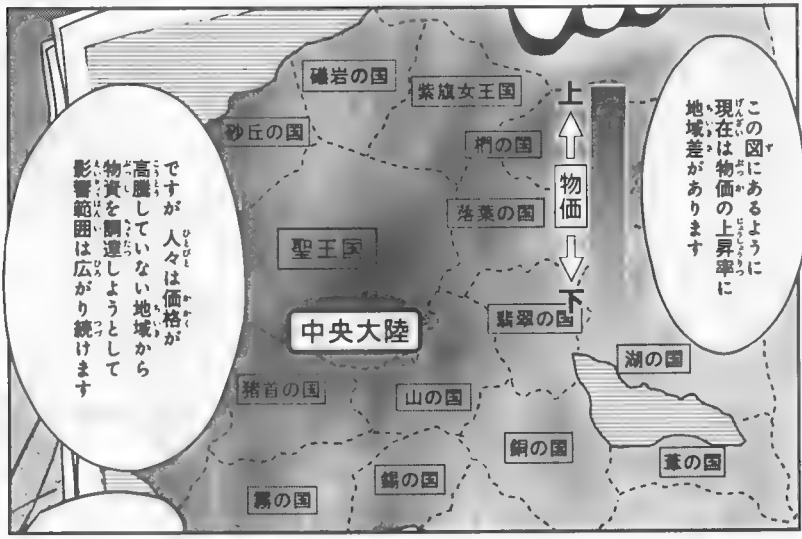

つまり先週金貨五枚で買えた品物が今週は十枚来週は二十枚…というようにどんどん値上がりしているんです
それでは庶民の暮らしが立ちゆかないではないですか

この図にあるとおり現在…
価格はおよそ例年の2倍に迫りつつあり
その速度は衰えていません
物価
金貨
わかりやすい…
おまけになぜかドキドキする…！
これは一大事なのでは
ふむ

これは何者かによる小麦を中心とした物資の買い占め工作かと考えられます
ペラ…
市場
園
園
？
物資が市場から減っていけば値段は上がり
買い上げられた分の金貨の流通量が増えるわけです

ただし
金貨の増加は
領主や貴族など
富裕層が中心で
物価の上昇に
対応するだけの
貨幣が民衆の側に
ないのが実情です
ペラ…
物資を
買うために
金貨が流入
いたわけです
なぜ
こんなことに…？
ム…
誰が
何の目的で？
それは
後回しです
目下重要なのは
これから何が
起きるかです
わかった
対応が先という
わけだな

これから
どのような事態が
予測されるのだ？
パーキン
ぺら…
物価の上昇が
続きます
いつまで
続くのかは
見当がつきません


この図にあるように
現在は物価の上昇率に
地域差があります
上
物価
下
礁岩の国
紫煙女王国
砂丘の国
梢の国
落葉の国
聖王国
中央大陸
翡翠の国
湖の国
猪首の国
山の国
銅の国
葦の国
錫の国
鶴の国
ですが 人々は価格が
高騰していない地域から
物資を調達しようとして
影響範囲は広がり続けます

檜の国
梢の国
鉄の国
南部諸王国
氷の国
冬の国
つまり
南部諸王国——
我々の国にも
物価上昇の
脅威が迫って
きているのです

これはある種の
攻撃であると
認識してください
防衛しなければ
なりません
承知した
確かに
火急の事態だ

まず
最初の対処法は
「関税」です

小麦を中心に
三国通商同盟の内側から
外側へ品物が出ていく
場合は税を取りましょう

通行税のような
ものか？

似ていますが
方向が
限定的です

この場合
出ていく物資に
かければ
いいだけです

関税

冬の国

小麦でも
馬鈴薯でも
持ち出す場合は
荷馬車一台につき
金貨十枚

十枚!?
べらぼうな！

なぁに
私たちの懐が
痛むわけでは
ありません

それに この関税を
かけなかった場合

私たちの食料は
すべて中央に
買い上げられ
冬に飢えることに
なるんですよ？

そうですね
二十枚でも
いいかもしれない

飢える農村は
カーペンシルズですからなぁ

次に宮殿関連の給金制度の段階的な休止

この現象は「金貨一枚で何ができるのか」という問いの答えがあやふやになったから起きているのです

普段なら小麦が三袋は買えた金貨で今 何が出来るかわからない

そこに問題があります

貨幣の信用がゆらいでいるのです

ほー

フム…

ですから通貨の使用を一部減らします

必要であれば兵士や文官の給与は小麦で支払います

我が国および通商三か国は食料の中心を麦から馬鈴薯に移行しつつあります

馬鈴薯は中央から見れば異端指定の作物

生半可なことではこれを買おうとは思わないでしょうそこを利用します

馬鈴薯を定価制にして

馬鈴薯の生産者からは一定の金額でこれを買い上げます

そして馬鈴薯を食べたい者や市中の食堂などには一定価格で馬鈴薯を売ります

定期的に値段は見直します

これによって少なくとも三か国通商内部では貨幣の信用力が安定するはずです

つまり「金貨一枚で馬鈴薯がいくつ買えるか?」という問いに答えがでるわけですからね

馬鈴薯の備蓄は
なるだけ
増やした方が
いいでしょう
生産を奨励
してください
了解した
対処としては
そのような
ところか？

治安の悪化も
予測されます
食い詰めて
山賊や盗賊に
なる者が出るほか
中央の食料が
なくなれば
大量の難民が
流入してくる
可能性もあります

これらには警戒を
厳にする必要が
あるでしょう
お任せあれ！

常備軍が
伊達ではないことを
お見せします

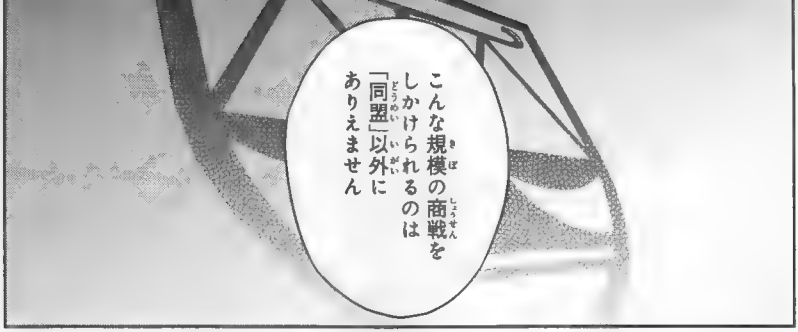
委細承知した
よく進言してくれたな
いえいえこれもお役目です
ペコ
ペコ

貴公の見識はよく把握した
今日から財務長だ
え

侯爵位だ
給金や手当はおって考えよう
いや
あの

財務長となったからには3倍の仕事もこなせるはず
赤いマントがいるか？
よろしく頼むぞ
我はさっそく布告作業にはいる
では頼んだぞ！
ここはさかせません!!
さぁ～うちも設備に行かなぁと…
…お茶淹れましょうか？
頼む

はあ…
僕なんかが財務長…？
二の国は本当に大丈夫か？
は
そんな謙遜するなよ
大したもんだったぞ
先生！
見てたんですか？
だいたいな
いやー見違えたな
からかわないでください
それにしてもこの流れ…
誰の仕掛けかなんてことはわかっているんだろ？
！
…はい


こんな規模の商戦をしかけられるのは「同盟」以外にありえません

ですがその目的ははっきりしません
食料品の価格を高騰させて売り抜けて利益を得る——
可能かもしれませんがそれだけが目的なのでしょうか？

とにかく「同盟」内部にこの流れをつくりだした中心人物…
「プレイヤー」がいるはずです
もしかしてその人物に心当たりが…？

ああ
あいつなら
これくらいのことは
やってのける
学士も
一目置いていた
やつだからな
師匠が…！
…だけど
目的がわからないのは
俺も同じだ
あいつ…
大陸中の麦を集めて
どうするつもりなんだ…？
うむ
この輝き…
深く
透明な紅…
美しい…

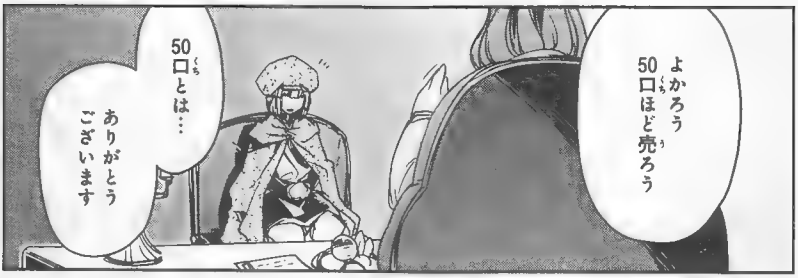
北方産の
鳩血紅玉…
まさしく
至宝よ
よく
手に入れてくれた
いえ…
勉強させて
いただきました

今後ともご贔屓に
お願いいたします
お支払いの
方は…
わかっておる
妻で支払えば
よいのだろう?

この宝石に
換わるなら
妻など
いくらでも
惜しくはないわ
おお
妻といえば…

この「小麦引き渡し証書」なるもの…
こんなもので本当に金貨を支払うというのか？
ええ もちろんです

それは次なる収穫の時の麦をこちらに譲っていただくための約束手形…
証書
金貨
麦の収穫
小麦
証書
いわば次の麦の代金を先払いさせていただくわけです
フム なかなか面白いことを考えるではないか


よかろう
50口ほど売ろう
50口とは…
ありがとう
ございます

なに
宝石の礼と
思ってくれ
貴公とは
これからも
良い取引を
したいものだな

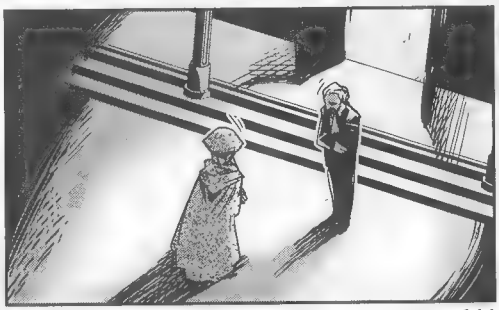
こちらこそ
よろしくお願い
いたします

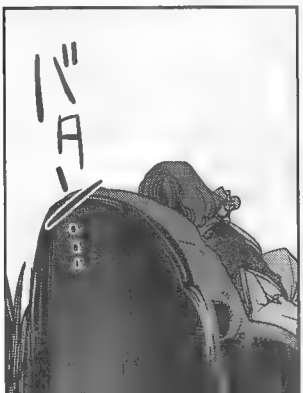
それに
先立つものが
必要な御時世
だし…な

そろそろ失礼します
本日は良い取引をさせていただきました
うむ
ガヤ…

今度の舞踏会にでも他の貴族に君を紹介しよう
ぜひ来てくれたまえ

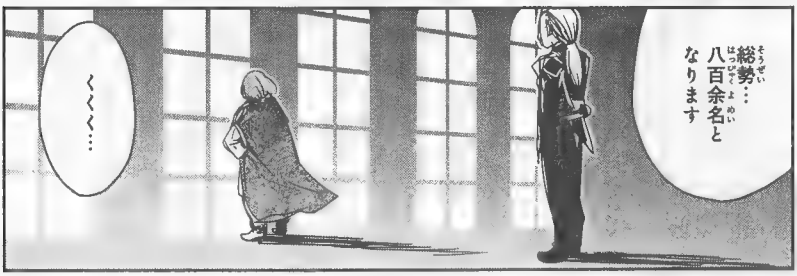
これは…ご厚意いたみいります
必ずお伺いいたします




バタン

フン
若造が…
よろしかったのですか
旦那様…？
あんなわけのわからぬ取引など…
かまわぬ
どうせ小麦など下民どもが勝手に刈り取ってくるものよ
本当に価値あるものはこのように輝きを放つものだ
それに…
卑しい商人などとの約束など守る必要もあるまい…？
準備はどうなっておる？
はっ

騎士団には
通達済みです
まもなくこちらに
馳せ参じましょう
加えて
高名な傭兵団も
雇うことができました


総勢…
八百余名と
なります
くくく…

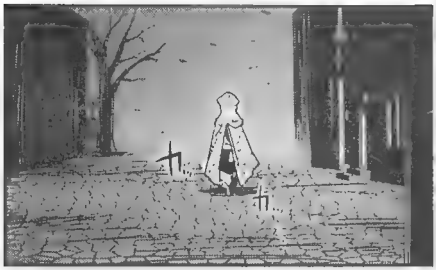
それだけあれば
大手を振って
この召集令に
参集できる
というものだ…
南部の蛮王どもめ
このように早く
我らが動くとは
思ってもおらぬだろう

なんとも都合よく
小麦の値段が
上がったおかげで
軍資金はたっぷり
蓄えておる
加えて
「小麦引き渡し証書」
なるものまで…
我が宝物庫には
金貨が
うなっておるわ

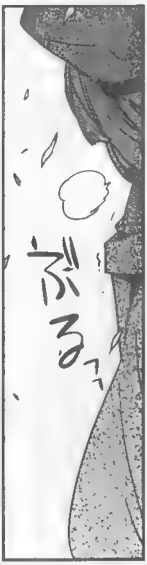
まさに
精霊様の
恩寵…
逆賊たる
南部諸王国を
討てという
お導きだな

南部の蛮王どもを
この宝石よりも紅く
染め上げてやろうぞ！

はははははは



ヒュウウウ


ぶるっ

湖の国も
もう冬か

…南はそろそろ
雪もきつくなって
くる頃か

おっと

キャッ…

失礼しました
いえ
こちらこそ…
あ
こんな時間に
女性の一人歩きは
危ないですよ
お気をつけて
宿に戻りなさい
では…
やっと
見つけられ
ました

お待ち
くださるかや
一度
お会いしました
覚えておられ
ますかや？
は？
えーっと…
お顔が見えない
ことには…
おお
これは
失礼を

お客人は商人…
どのようなものでも
手に入れらるる方だと
あの宴で
聞きましたゆえ
ヒュー…

終 第十六話 金貨1枚で何ができるのか

第十六回

関税とその効果について

商人の誕生とともに生まれた関税は、税収を得るというだけでなく国策にも関わる重要なシステム。

関税は移出される物資に課せられる税金。作中では、輸出する物資にかけることに

国内産業を守る関税はデリケートな問題

「関税」とは、貿易において物資やサービスを輸出、または輸入する際に課せられる税金のことだ。現代で、単に「関税」という場合は、輸入する際にかけられる輸入関税を指す。

「関税」には、税収による国家収入の確保という以外に、国内産業や市場の保護と振興・育成を促進するという意義がある。例えば、自国の自動車産業が衰退しつつある、もしくは振興したいと考えた場合、輸入する自動車（輸入車）に関税をかける。すると、輸入車の価格が上昇して国内における需要が減るので、国内産の自動車の需要を確保できるというわけだ。

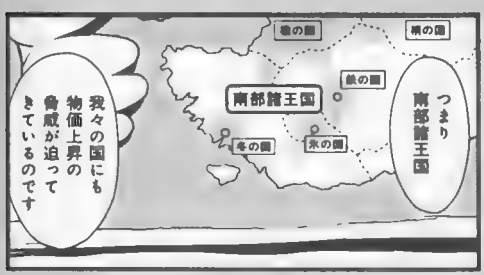
関税は古くから存在しており、紀元前59年のローマ時代の書簡には、徴税人と商人による係争について記されている。その後、封建制度が確立して領主の領域が明確になっていた中世の頃には、領主たちが自領を出入りする貨物について関税をかけるようにもなった。これは、物流を専門に手掛ける商人が登場したことで、彼らの利益から税を徴収する意味で生まれたものという意見もある。

さて、「まおゆう」では大陸中央諸国で、物資の不足から貨幣価値が下がるインフレが起きている。そして、南部諸王国のインフレに対する防衛策として関税が登場した。

中央諸国が南部から買いつけようとする物資に南部が高率の関税をかける。中央諸国内部で手に入る以上の価格になるほどの関税をかけてしまえば、中央諸国は南部から物資調達をするメリットがなくなる。よって、南部は中央諸国への物資の流出を阻止できるというわけなのだ。

こうした関税に対しては、報復として中央から南部に向かう物資に対して高率の関税をかけられる危険もある。実際の歴史では、1906年にオーストリア＝ハンガリー帝国がセルビアからの畜産物に高率の関税をかけた「豚戦争」が起きたように、関税は政治的にかなりデリケートな問題なのだ。

今回は、南部が馬鈴薯の栽培などで中央からの物資的独立を目指していたので、強い態度に出られたといえる。



商人子弟は、中央諸国で発生したインフレへの対抗策として高率の輸出関税を提言した。

お呼びいただきありがとうございます!!
石田先生のまあー様の愛いを帯びた
瞳がステキです!!
松竜。

松竜さん ゲストイラスト
ありがとうございました!!

南部諸王国と
中央大陸との対立が
臨界点を迎えつつあるなか、
金貨と小麦を媒体とした
もうひとつの戦争も密かに、
だが確かに進行していた。

しかし
その場に魔王の姿はなく、
彼女は冥府宮で
古の歴代魔王たちとの
静かな戦いにあたっていた。
魂の汚染による微睡みにあって
彼女の脳裏に浮かぶものは
幼き頃の日々で――。

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」

コミックス第5巻

'12年12月発売予定

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」④

漫画 石田あきら　原作 橙乃ままれ　キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

2012年8月25日初版発行
2012年9月26日第2刷発行

発行者
新名　新

発行　株式会社角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8719(編集)
発売　株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8521(営業)
http://www.kadokawa.co.jp

装幀・デザイン
沼利光(D式Graphics)

印刷 共同印刷株式会社　製本 本間製本株式会社

初出／「月刊コンプエース」'12年6月号～'12年9月号

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2012 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Akira ISHIDA 2012
©2011 Touno Mamare／PUBLISHED BY ENTERBRAIN,INC.
ISBN978-4-04-120361-3 C0979

——「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」——

第四巻

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉雲之丞・toi8

Kadokawa Comics A

おしえて！メイド長
その4
メイド長！
質問があります
いつになく
真剣な表情ですね
メイドとは
どこからきて
どこへゆくの
でしょう
わたし
知らないまくる
ついに
その疑問に
たどり着き
ましたか…
どこからくるか…
それは
今 この時
メイドとしての
自分が常に
スタートなのです
どこへゆくか…
それは誰にも
わかりません
メイドの道に
終わりはない
からです
さあ！
いきましょう
明日へ
向かって…
私たちは
のぼりはじめた
ばかりだからな
この
はてしなく遠い
メイド坂をよ…
未完？